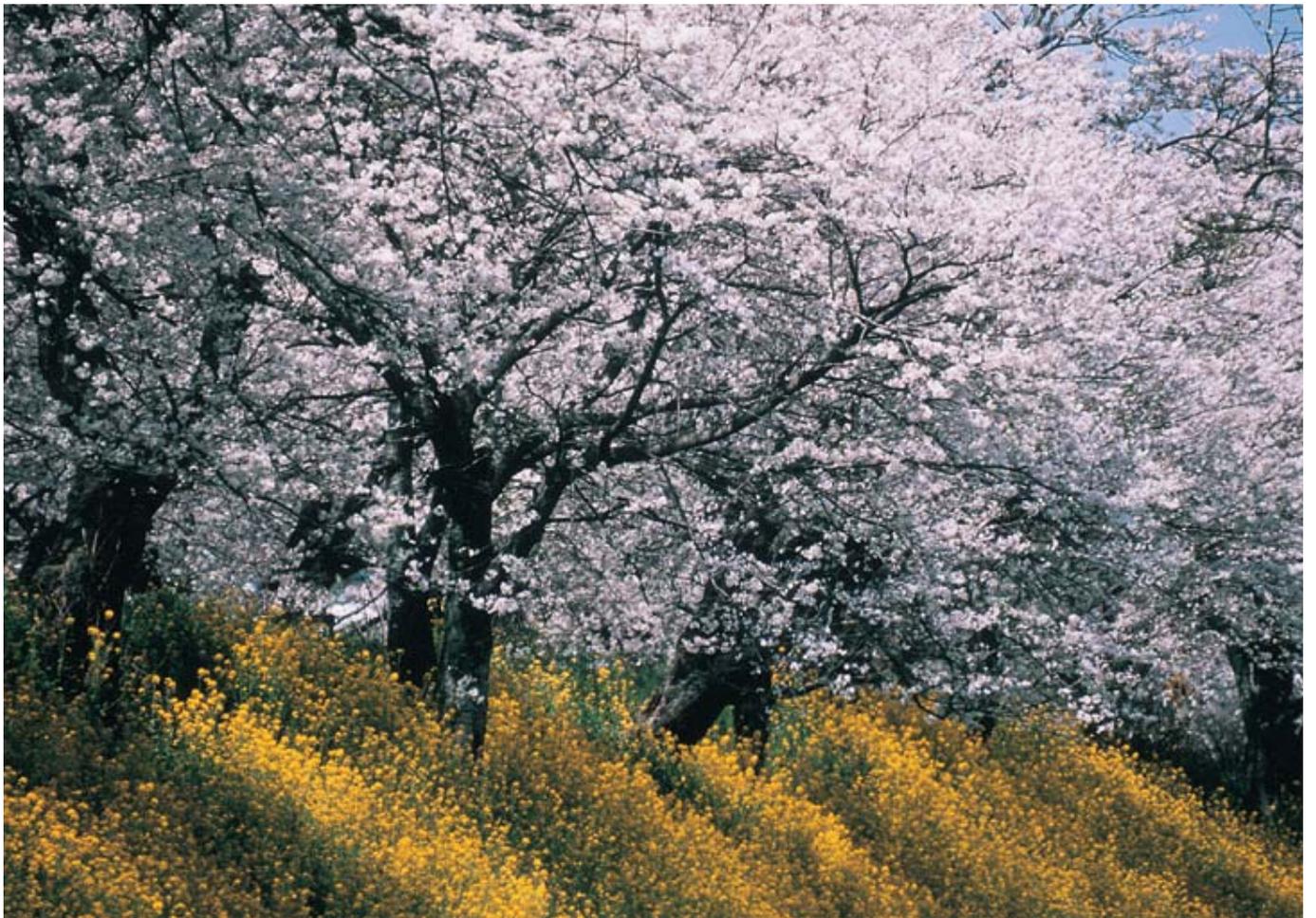


第12号

# 酪農とちぎ



## 桜前線

### 本県を北上中

今年の開花は前年よりやや遅れています。県南・県央は桜花爛漫の下花見客で連日にぎわっています。

四月は入・進学、お花見各会合、田植準備に続き、今年は統一地方選挙を控え何かと多忙になります。

組合におきましては四月十二日(土)「第2回酪農まつり」を予定しております。当日は、盛り沢山の催物を準備しておりますので、ご家族揃ってご来場下さるようお願いしております。

また、春の農繁期を迎え、心せわしくなりますが、農機具の点検・整備を励行し安全作業に努めて下さい。



# 乳価値上げをバネに 次年度は生乳確保が課題

組合の二年度事業も、三月末日を以ってつつがなく終了しました。

組合全体の事業経過及び財務状況につきましては、今年度も地域説明会を予定しておりますので、後日細部説明致しますが、各事業の概要についてご報告します。

## 総務部

飲用向け乳価が二十四年ぶりに引上げ実現されたことは特筆すべきことです。交渉結果、支払い乳価が約四十銭引き上げられ、今後の経営に必ずや寄与するものと念じます。

「地域合理化検討協議会」では更に検討を重ね、地域皆様のご理解・ご協力を得て、県南CS及び黒羽事業所を閉所し合理化を進めて参りました。県北CS(仮称)の新設につきましては、十五年度中に基本計画をお示しできるような準備を進めているところです。

昨年、六月二十七日の第一回総代会で承認決定された事業計画及び収支計画に基づき、各事業を展開して参りましたが、各部とも所期の目的が達成できる見通しです。特に組合財務は、厳しい酪農情勢下、組織整備や事業合理化を積極的に推進した結果、自己資本の充実が図られ、安全性と健全性を更に高めることができました。今後、混迷する経済状況やWTO交渉による国際的な外圧も予想されますが、組合員に信頼され合併効果が持続できるような組織づくり並びに人事考課による労務管理制度を取り入れ、生産性向上と合理化を推進し高度化・多様化する組合員ニーズに対応できる職員能力開発・人材育成に取り組みで参ります。

## 生乳販売部

生乳生産につきましては、計画量二十一万一千六百トンを目標に増産を推進して参りました。

その結果、前年九月までは、猛暑にも拘らず順調な生産状況で推移しましたが、十月以降はBSEの影響で乳牛の更新が進まず、高齢牛の滞留が要因であるのか、生産が鈍化し計画を下回りましたが、生乳生産量は、二十一万二千四百トと計画を達成しました。

低迷が続く生乳生産と需要期に向け、需要期生乳増産対策の一環として、六月、十月まで実施した出荷奨励制度事業につきましては、優良生乳出荷奨励金(千五百四十三万円)は若干計画に達しませんでした。需要期出荷奨励金(一億五百六万四千元)については、組合員各位の取り組みの成果により、計画より多く支払うことが出来ました。

販売につきましては、当初より二十四社への配乳に基づき販売を行なってきましたが、関東に於ける生乳生産の伸び悩みと共に、飲

用向け需要が堅調な状況から、加工率が大幅に減少されました。

又、明治乳業の「おいしい牛乳」の販売が好調により、栃木明治への県内処理量が当初計画より増え、送乳コストの低減を図ると共に、県南CSの統廃合を実施し、組合員各位の深いご理解のもと、宇都宮CSへの搬入を行ない合理化に努めて参りました。

検査業務は、乳成分測定機(コンピフォス)を那須高原CS・宇都宮CSに導入し、検査の迅速性と効率化を図るとともに、検査項目も今までの成分検査の他、新たに浸透圧及び尿素値(MUN)を取り入れております。

更に、生乳生産が低迷する中、需要期に向け生乳不足が危惧されることを踏まえ、緊急生乳増産対策(一億九千九万七千元)を講じたところです。

最後に、組合員皆様に於いては、良質乳の生産に努められ計画通りの販売が出来たことに感謝申し上げます。



## 市乳販売部

市乳事業は様々な局面を迎えまして。

先ず、国庫補助乳業再編事業で新しい那須工場が完成し、国内最新とも言える衛生的な工場がスタートしました。(この事業の一環として、三和酪農時代に長年生乳取引でお世話になってきました(有永島牛乳店・株)大塚乳業の商品を当那須工場で製造させて頂く事となりました。)

生乳貯乳能力は従来と同じですが、受乳場は、集乳車ベビローリー三台・十五トローリー一台が同時に受け入れられ、県外送乳用大型ローリーも同時に一台積み込みできる体制となりました。製造ラインは、毎時一万六千本のラインが一本、毎時六千五百本のラインが二本の三ラインで稼働しています。いずれもE.S.L製法(原料から製品に至る製造工程において、より高度な技術と徹底した管理システム体制を整備することによって、牛乳本来のおいしさを保ちながら、品質保持期限を現状より更に七日間延ばした商品)の製造が

可能になりました。現在「南那須牛乳」、「かましん牛乳」、「那須りんどう牛乳」、「ながしま牛乳」がE.S.L商品として販売しております。従来の製造能力をはるかに上回る工場で、毎日平均二百五十(三百ト)の生乳が処理できるようになりました。

また、食品メーカーにとつても変革の年でした。牛乳の食中毒事件が収まりつつあった中、今度は大手食肉メーカーによる牛肉産地偽装問題が発覚、その後も次々と様々な食品が消費者の信頼を失墜させる同様な事件が報道される事態となつてしまい、現在は業界全体が信頼回復に努めているところです。

この様な中、当工場で製造された商品は、幾世代にも亘つて美味しく飲み継がれていく牛乳として、また「お客様に安心して選んで頂ける牛乳」となつて、「安心・安全・新鮮・おいしい」をモットーに、例えば「クレームゼロ牛乳」として良い意味でメディアの注目を浴び、食品業界全体の切り札となる様な商品力が持てるよう努めて参ります。

## 酪農部

### 指導課

第一回酪農まつり・ホルスタイン共進会を四月一日開催しました。会場のふれあい牧場に、組合員及び家族・市乳愛飲者三千五百名が参加し、組合員同志と消費者との交流、親睦を深めました。



第1回酪農まつり・ホルスタイン共進会

各戸巡回による経営改善、生乳増産を推進しましたがB.S.Eの後遺症はいまだ完全払しょくができてない状況です。肥育素牛・肉用牛価格も年度後半から回復しましたが、初妊牛価格が高騰推移し、搾乳牛の更新が思うように進まず、

生乳生産量も低迷下にあり、次年度の生乳確保が課題であります。

ヘルパー事業は、利用者の増加に伴ない拡充して来ましたが、現在の定休型利用者は三百三十四名ですが、新規希望者の増加がありますので今後も拡大を計画しています。特に「傷病時利用制度」の利用者が多い状況から、次年度も万全の対応を期したいと考えております。

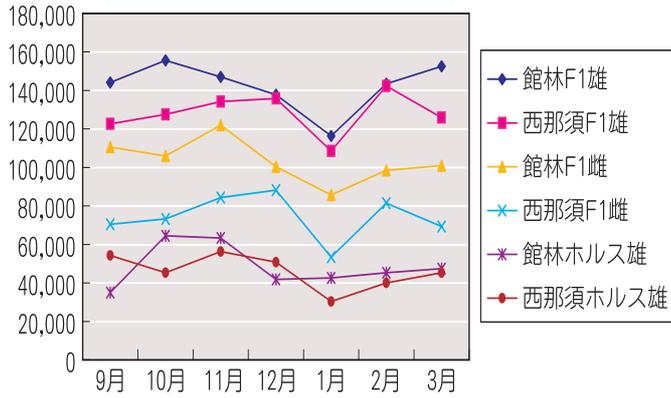
組織活動は、支所事業運営協議会による全農家への花の苗配布、地域酪農組合・青年部・女性の各種研修会等、各地域の特性を活かした活動を支援して参りました。また、乳牛導入・預託・肉用化事業等の推進、B.S.E対策関連の各種補助事業についても積極的に取り組んで来たところです。



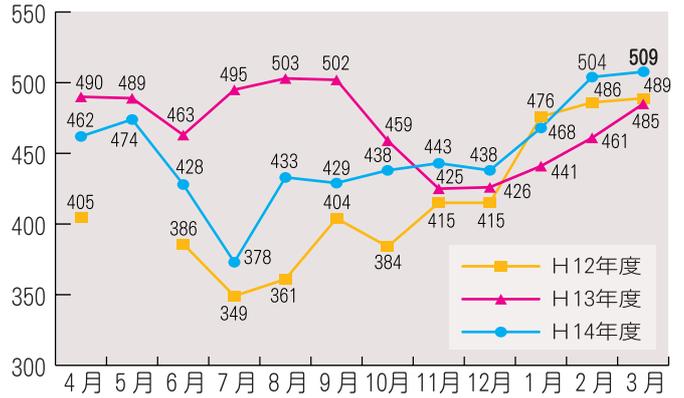
全農家に花の苗を配付



## 9～3月家畜市場成績



## 十勝乳牛市場(初妊牛)平均価格の推移



購買事業は、安全・良質で安価な飼料の安定供給を基本とし、組合指定配合及びTMRの普及推進、直送の推進、飼料倉庫の合理化、配合飼料等供給量別利用奨励措置の実施など五項目を重点に事業を進めて参りました。

その結果、指定配合、TMRの供給については、組合員の皆様のご協力により、指定配合二百戸・TMR六八戸の利用実績となりました。また、配合飼料の直送については、四一戸を新たに実施することが出来ました。

飼料倉庫の合理化については、当該組合員の皆様にご協力を頂き、六月末に西那須野事業所・九月末

### 購買課



青年部主催による講演会  
(歌って 踊って 講師 村川徳浩氏)

に黒羽事業所の飼料取扱を中止し、購買業務を北部運送に移管する体制により、合理化を図ることが出来ました。

配合飼料などの利用奨励制度については、厳しい酪農情勢を鑑み昨年十二月末に暫定払い(九カ月分)を実施しました。

また、昨年十二月に組合推奨飼料添加剤、今年一月には組合指定サプリメント配合飼料を開発し普及推進を図りました。

以上が十四年度重点事業等についての結果であります。指定配合、TMRの供給量が計画に達しなかった等反省する部分も多々ありますが、まずまずの成果を収めることが出来ました。しかし、組合購買利用推進という面においては、まだ目に見える成果が出ておらず、今後さらに努力して行かなければなりません。

これらを踏まえ、十五年度には組合購買利用推進巡回をより積極的に実施し、利用率の向上に努めて行きたいと考えておりますので、組合員の皆様の一層のご協力をお願い致します。

## ふれあい牧場

牧場事業につきましては、預託牛頭数三百九頭の内、今年度受入れ二百一十一頭と計画を上回り実施することが出来ました。又、周年放牧及び無畜舎飼養の試みとして実施した厳寒期場内平地林併設放牧場への放牧管理におきましては、特に注意深く観察して参りましたが意外な程順調に経過しており、牛の状態も良好です。退牧した牛の成績をみますと、一日当たりの増体量は六百六十三g、受胎率九十七・四%でした。

草地においては、ヘイレージ・ロールサイレージともに次年度に向けた自給粗飼料の必要量は確保でき、春本番を待つばかりです。

又、当牧場は学習の場としても利用されております。幼稚園・小学校はもとより、本年度は地元中学校のマイチャレンジ体験学習として、十二名の中学二年生を一週間受入れました。皆それぞれに、体験を通し働くことの大切さや、牛とのふれあいに感動して帰りました。

春が近づくと共に、牧場を訪れる方も多くなりますが、より充実した牧場になるよう努めて参ります。



# 東西南北

## 那須高原支所

栃木県女性農業士（人見みろ子さん）を祝う会を開催

二月二十六日に黒磯市内の結婚式場において組合員の人見みろ子さん（青木支部）が黒磯市の推薦を受け、栃木県女性農業士に認定されたことを祝いました。

当日は、発起人の呼びかけに農業関係者等百名の方が参加されました。

人見みろさんは、成牛二十頭を飼養する傍ら農業体験館「TRY・TRY・TRY」を開催し、消費者等に酪農体験指導を行なっております。

祝う会の席上、人見みろさんは「皆様の声を聞きながら、家族の理解、夫の理解のもと本県の農村、農業の



ために頑張りたい」と決意を述べられました。

## 宇都宮支所

宇都宮支所活動推進協議会並びに三地域酪農組合合同講演会開催

二月十八日、塩谷地方農業共済組合にて畜産コンサルタントの錦見勝之先生を招き、「乳房炎予防対策」と称した講演会が開催されました。この講演会に組合員皆様など、七十九名が出席し搾乳方法等について聞き入りました。

冒頭に協議会長の小林幸雄氏が、「日頃多くの仲間が乳房炎でご苦労しているものと思われま。今日はその解決の糸口が見付ければ開催した意義があり、学んだことを実践されることを期待します。」と挨拶し、次に酪農とちぎ菊池副組合長より組合の近況を報告頂きました。

講演は、「昨日米国から帰国したばかりです」と始まり、「視察して来たカリフォルニア酪農も乳房炎対策と繁殖向上が課題である」と近況報告となりました。それから本題に入り、まずは牛群の乳房炎発生状況の把握とその原因追求、泌乳生理について、ミルカーと搾乳技術について事細かく、かつ分



かりやすい説明をされました。これらの内容を要約すると十分な乳頭マッサージを行ない、その後三十秒

から一分以内にミルカーを装着し、五分以内で搾乳を終了するのが理想であるとのことでした。また乳頭口からの細菌感染を防ぐためにもディッピングは不可欠であり、免疫力を高めるためにも栄養管理、ストレスの排除も必要とのことでした。講演後多くの質問があり、予定時間を三十分も超過するほど非常に有意義な講演でした。

## 栃木県南支所

研究会の紹介

大内飼料給与研究会

真岡市の北部、井頭公園東に位置する田園地帯大内地区に、お互

いの経営について検討しているグループがあります。

昭和五十年代に検定事業が始まった直後に、検定成績を持ち寄り、県や組合の指導員とで成績を検討し合ったのが始まりです。

現在、高橋平治会長他六名の会員ですが、月一回の定例会で検定、繁殖、乳量等の成績をお互いに公開して熱心に討論されています。この公開しての検討がお互いの本心で話せる場となり、飾り気がなく、酪農体験談を話し、更にこの会で進められ実行した体験が自然と話題となり更に深く検討されているようです。

成績の検討だけでなく、その時の話題についての検討や必要ある時には視察研修も実施しています。この会が益々進展していくものと期待をしています。

心の開ける仲間同志での小グループ研究会を作ってみませんか。指導員との一対一も必要かも知れませんが、グループと指導員の検討もより効率的な情報を得ることがあります。



# 部課だより

## 生乳販売部

二月の生乳の需給状況は、十四年後半からの逼迫状態が続いており、加工発生率が関東生乳販連において五・一％（前年より五・九％減）、前年比四十五・一％と大幅に減少しており引き続き飲用向け需要が堅調になっております。

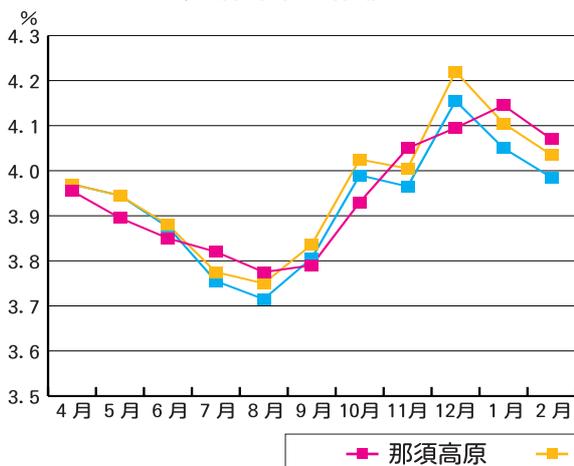
累計でも二月までの加工率は五・一％と前年度より二・五％減少（前年比六十六％）しており、このまま推移すれば年間で五％台となることが見込まれます。

### 都府県の生乳生産停滞続く

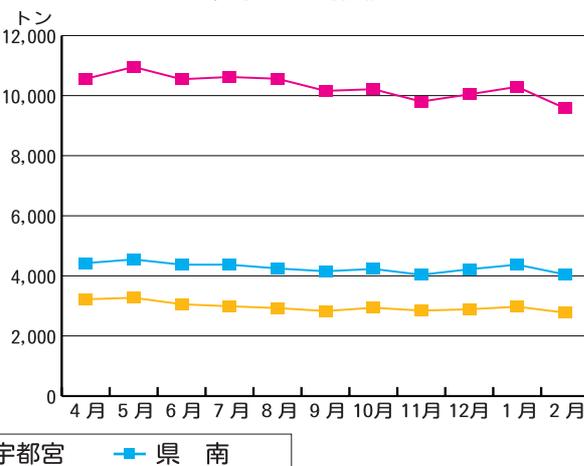
生乳生産は都府県では回復の兆しが見られず、前月よりも更に伸び悩んでいる状況下であり、関東生乳販連においては前年比九十七％に止まっております。特に南関東地区は六・一％減と廃業者をカバーできず大幅な減少が続いております。

一方、二月の本組合の生産乳量も二月も十一月からの減少傾向が変わらず続いており、前年比九十

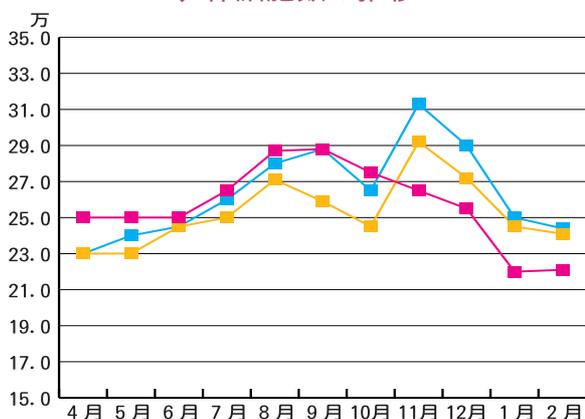
◆ 脂肪率の推移



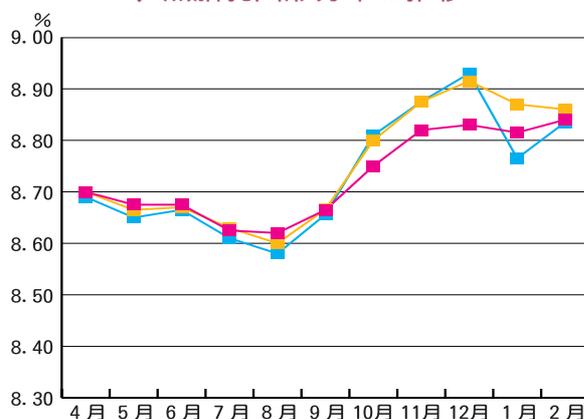
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



九・三％となりました。支所別で見ると那須高原支所は九十九・八％、宇都宮支所は九十三・七％、

県南支所は百二・二％と県南支所については前月同様堅調な生産動向ではありますが宇都宮支所については前年を六・三％下回っております。今後の生産の回復を期待するところです。

乳質においては、二月は成分的乳質、衛生的乳質とも改善されており、特に無脂固形分率については前年を〇・一％上回り、細胞数も平均で前年より一・三万向上しており、組合員各位の乳質改善努力の成果と感謝致します。

今後も乳牛の飼養管理に努め乳成分及び衛生的乳質の更なる改善にご努力をお願い致します。

二月までの乳量及び乳質成績の推移は上記のとおりです。

## 市乳販売部

五回目となる当組合の製品紹介シリーズは、県内で販売されている「ながしま牛乳」を紹介いたします。この商品は、(有)永島牛乳店より当組合が製造を受託し、主に幼稚園や病院、老人福祉施設等で販売し





たいらや 烏山店



ております。スーパーでは、ナショナルブランド（販売店が限定されていない牛乳）として今年三月一日より、「たいらや烏山店」で販売がスタートしました（写真参照）。通常ナショナルブランドの場合は棚割で二フェース（商品棚に二本並べて売る事）が基本ですが、積極的に販売して頂いております。この商品はE.S.L製法で造られ、品質保持期限が通常の商品より二

週間と長いのが特徴です。通常の牛乳よりも一週間延長されることにより、製造面、配送面、販売面で大きなメリットがあり、今後最も注目される製法です。今後もお近くのたいらやで「ながしま牛乳」を見かけましたら、ぜひお買い求め下さい。

## 酪農部

### サイレージ共励会審査結果

第三回酪農とちぎサイレージ共励会デントコーンの部の審査結果が出ましたので御報告致します。出品点数は六十七点で、分析と審査は県酪農試験場に依頼し、審査の結果上位入賞者は次の通りです。

- 最優秀賞 滝沢悦郎 高根沢町
- 〃 小松良吉 那須町
- 〃 前原 恒国 分寺町
- （上位三名は九十一・四点の同点による最優秀賞）
- 優秀賞 平野勝弘 烏山町
- 優良賞 阿久津智 高根沢町
- 〃 町井幸衛 市貝町



〃 大森隆志 市貝町

〃 渡辺久男 黒磯市

〃 箕輪長一（高根沢町）

〃 川又隆夫 市貝町

他、努力賞八点が入賞しました。尚、表彰につきましては今年六月の総代会時に予定しています。

### 酪農ヘルパー員全体研修会開催

三月十七、十八日、那須町に於いて専従ヘルパー員十八名、臨時ヘルパー員七名参加のもと、酪農ヘルパー員全体研修会を開催しました。

講師に指導課職員並びにオリオン機械(株)・傳田聖一氏を招き、搾乳衛生、技術等の研修を行う他、専従ヘルパー石浜文伯氏より体験発表をして頂きました。

また、意見交換を通し懇親を深めると共に、意思の統一を図る事が出来ました。

## 3月ホクレン初妊牛市場成績

（単位：頭、千円（税込））

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~400	401~450	451~500	501~550	551~600	601以上
十勝	6~7日	473	516	32	32	112	147	101	49
豊富	13日	356	509	21	32	93	124	72	14
釧路	19日	257	488	21	42	63	95	36	0
根室	20日	349	516	11	23	69	161	76	9
十勝	24日	456	501	24	44	134	181	61	12
北見	26日	452	508	11	45	129	182	78	7
合計		2,343	507	120	218	600	890	424	91
前月		2,444	494						
前年同月		2,060	480						

## 家畜市場成績

平成15年3月

単位：円

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 十五日	ホルス雄	131	-	73,500	2,100	45,358
	F 1 雄	97	-	180,600	11,550	125,946
	F 1 雌	72	-	127,050	16,800	69,344
館林 十七日	ホルス雄	10	68	65,000	10,000	47,400
	F 1 雄	18	69	176,000	87,000	152,556
	F 1 雌	13	71	123,000	80,000	100,923



## 二月度理事会

### 報告事項

- (一) 資金貸付について
- 協議事項

- (一) 一月度事業実績について
- (二) 緊急生乳増産対策について
- (三) 農業近代化資金貸付について
- (四) 平成十五年度配合飼料及び混合飼料供給量別利用奨励措置

### 置の実施について

- (五) ふれあい牧場について
- (六) 専門委員会開催について

## お知らせ

### 全国酪農青年女性会議主催

#### 第三十回「さくら」コンテスト

#### 「ヤマブリー」作品募集のお知らせ

#### 《募集規定》

酪農を中心とした題材の図画、

工作など（大きさは自由）

自作で未発表のものに限り、

作品には、題名・住所・氏名・

年令・学校名・学年・保護者名

を必ず記載して下さい。

作品は返却いたしません。返却

を希望される方は返却希望の旨

を申し出下さい。

#### 《応募資格》

四歳から中学生までの酪農家

の子弟、及び酪農に関心のある

一般のお子さん

#### 《締切日》

平成十五年五月二十日

#### 《提出先》

酪農とちぎ所轄支所・事業所

#### 《審査結果の発表》

「第三十三回全国酪農青年女

性酪農発表大会」の発表資料要

旨および全酪連会報七月号に審

査結果を掲載いたします。

#### 《褒賞》

特選：一点 入選：四点

秀作・ファミリー賞：若干

あすなる賞：小学生以下の作品

その他：参加賞がございます。

特選：「第三十三回全国酪

農青年女性酪農発表大会」に

ご招待（保護者一名同伴）

入賞：記念品贈呈

優秀作品：「全酪連会報」表紙

掲載・作者顔写真、講評を最

終ページに掲載

## 職員人事

退職 (二月二十八日付)

青柳 克之(県南支所)

異動 四月一日付けにて別紙のと

おり異動が発令されました

のでお知らせします。

## 春夏秋冬



中央酪農会議が、全国の酪農家を対象に行ったアンケート調査の結果が発表されましたので、その中から特に関心のある項目を拾ってみました。

酪農家が直面している課題として挙げられたのは「家畜排泄物法への対応」が最も多く五二・一％、次いで「個体乳量の向上」三九・八％、「過重労働の軽減」三五・八％、「乳質改善」三四・四％となっております。

後継者の確保状況については、「後継者不在」二一・七％、「後継

者未定」二四・一％、「後継者在り」一九・五％で後継者難の傾向がはっきりと表われています。

酪農経営の継続については、「継続」が四九・二％、「当面中止の予定なし」三四・二％と継続の合計が八三・四％に対し、「中止予定」は十六％となっております。

中止予定の理由は、「後継者不在・高齢化・過重労働」が最も多く六二・八％、「環境問題」は以外にも十四・八％にとどまっています。

WTO農業交渉がヤマ場をむかえています。日本とEU等対米国とケアンズグループ等との対立と云う図式のまま方針確立の期限となつて三月末日を迎えようとしています。

関税水準・アクセス数量の拡大などに関し、総じて各国とも自国に有利な主張を繰り返しグループ

勢力間の駆け引き綱引きが行われていますが、米国等は「国内支持の各国間の不均衡を温存する関税削減幅の抜本強化が必要」とし、

日本等は「現行の国境措置について基本的枠組みを維持すべき」と主張、農水としては「まだ交渉の帰趨を決するに至っていない」との見方があります。

仮に米国側の主張寄りに調整が行われた場合、海外の安い農産物が日本に入りやすくなり、国内の農業全般に大打撃を被ることは必至であり、是非とも現状を守りきつてもらいたいと切望するものであります。(W)

